

協 管 少額保険販売や功労者表彰

全 管 シンポ開く「いい仕事は残る」

全国賃貸管理ビジネス協会（全管協）は6月21日の「全管協シンポジウム2017」（関連記事6面）の中で、少額短期保険代理店表彰制度や功労者表彰などの各表彰式を開催し、高橋誠一会長が表彰



対象各社にそれぞれ表彰状を授与した。

少額短期

保険代理店表彰制度表彰会員は、販売数で1000件から2万4000件を達成した189社、更に増件数で500

件から3000件を達成した18社をそれぞれ表彰した。表彰対象企業を代表して、宅都ホールディングス（大阪市中北区）常務取締役の小田慎三氏は、「協会会員として日が浅いが、栄えある受賞でうれ

しい。皆さんのご指導に感謝します」と喜びを語った。新事業新商品開発事業部表彰会員では、会員企業の収益性や業務効率性を向上させる付帯商品の導入に伴う手数料収入額や導入商品数などを競う4部門の上位3社までの合計12社を表彰した。表彰対象

企業を代表して、ハッピーハウス（福岡市博多区）取締役の上田和弘氏は、「『新新委員会』に入り3年で新商品開発に関わり、24時間駆けつけサービスなどを顧客に推奨できたことが表彰の結果につながった。今後も尽力したい」と決意を新たにされた。

このほか、退任理事や永年勤続の功労者を表彰し、新理事を紹介した。

また、高橋会長は、同シンポジウム冒頭の全管協ビジョンの発表で、ロボットの普及による仕事への影響に関する米国の研究結果を紹介し、「不動産仲介は10年以内になくなるとされたが、いい仕事は残る。全国の会員ネットワークから学

び、どうしたら残れるのかを考えほしい」とし、更に民泊新法の施行を控え、「10年に一度のビジネスチャンス。すぐに取り組めるように準備をすること」と述べた。



高橋会長が各社に表彰状を手渡した